

有志 3 人チームの熱き夏

# 高校生模擬裁判選手権本選銀賞

高校 2 年の大川紗輝さん、シーヒーエレン京子さん、平島綾乃さんが  
清真初出場の本選で快挙



上の写真:ご指導をいただいた支援弁護士さんと支援検事さんの写真

2021 年 8 月 7 日に第 14 回高校生模擬裁判権の本選が開催されました。本校からは高校 2 年の大川紗輝さん、シーヒーエレン京子さん、平島綾乃さんの 3 人が参加しました。全国の 1 チーム 30 人以上いる強豪校が激闘を繰り広げる中、初出場の 3 人がチームワークを発揮し、銀賞をとりました。

## 〈高校生模擬裁判選手権とは〉

本大会は弁護士連合会が開催しており、1つの事件を素材に、法律実務家の支援を受けながら、参加各校が検察チーム・弁護チームを組織し、高校生自身の発想で争点を見つけ出し、整理し、証人尋問・被告人質問・論告弁論を行います。例年では実際の裁判所の法廷で試合が行われますが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いオンラインでの開催となりました。

今年の題材は公務員の収賄事件で、被告人の収賄の認識の有無が大きな争点となりました。



## Student's comments

大川さん:私はこの大会を通して、物事を多角的に考えることの重要性に気付かされました。教材にある全ての情報を鵜呑みせず、一つ一つ信憑性や争いのない事実なのかを検討するのは難しかったです。この大会の開催を実現してくださった皆さんに感謝でいっぱいです。メンバー2人と支援弁護士、支援検事の皆さんもワンチームとして最後まで一緒に走り抜けてくださり、ありがとうございます。来年も後輩の皆さんが会場されるのを楽しみにしています。

シーヒーさん:私はまず今回の大会に出場するきっかけを作ってくれた大川さんに感謝しています。そして大会当日まで支援してくださった支援弁護士、支援検事の方々に感謝しています。今回の大会を通して以前よりも客観的に物事が見れるようになったり、限られた時間の中で必要な情報を抜き出したりすることができるようになりました。来年は後輩の皆さんが金賞目指して出場されるのを期待しています。

平島さん:今回の大会を通して、以前より時間の使い方が上手くなったと思います。予選、本選ともに準備する時間がとても短かったです。可能な限り話し合いをしました。そして、話し合いをすることにより、一つの案件をさまざまな角度から見ることができ、最高の発表ができたと思います。一緒に参加してくれた二人、支援弁護士や支援検事の皆さんがいなければ、「銀賞」が取れなかったと思います。心から感謝します。来年は後輩の皆さんが会場されるのを期待しています。



### ◀6月5日に行われた茨城県予選の様子

予選では両校とも論告だけを作成し、審査されました。今回の題材は殺人事件。相手は入賞経験のある高校で、緊張した雰囲気の中で、見やすいプレゼンテーションが評価され僅差で勝利しました。予選を行わず、抽選で全国の出場校を決める県がある中、私たちは予選に参加させていただいたので感謝でいっぱいです。相手校の聞くだけで理解が容易にできる文章構成、データの見やすさなどたくさん学ぶことができました。審査員の方からもたくさんのアドバイスをいただきました。

### 8月7日の本選の様子▶□

夏休み中でも前日まで準備をオンラインで話し合いをしながら進めました。当日パワーポイントが共有できなくなる、ハウリングしてしまうなどたくさんの予期せぬトラブルに見舞われましたが、持ち前の3人のチームワークで最後まで涼しい顔でやり抜きました。そして尋問や質問は供述調書と異なる発言があるなど、難しいこともたくさんありましたが、事前に想定外を想定した練習が役立ちました。また、現役の大学教授、裁判官、テレビ局の方が審査を行い、改善点をはじめチームワークの良さや分かりやすさへの好評をいただきました。

